

第7回 大橋川改修に関する環境検討委員会 議事要旨

【Ⅰ】開催日時 平成19年3月30日(金) 14:00～16:30

【Ⅱ】開催場所 松江テルサ テルサホール

【Ⅲ】出席委員

| | |
|----------------------|------------|
| 島根大学生物資源科学部教授 | 相崎 守弘 |
| 鳥取大学地域学部長 | 岡田 昭明 |
| 島根大学汽水域研究センター長 | 國井 秀伸 |
| 島根野生生物研究会 | 越川 敏樹 |
| 島根野生生物研究会 | 佐藤 仁志 |
| 九州大学大学院工学研究院教授 | 島谷 幸宏 |
| 島根大学総合理工学部物質科学科助教授 | 清家 泰 |
| 島根大学副学長 | 高安 克己 |
| 日本野鳥の会鳥取県支部理事 | 竹中 稔 |
| 鳥取大学地域学部地域環境学科教授 | 鶴崎 展巨 |
| NPO島根県在来魚保護協会専務理事 | 中村 幹雄 |
| 中央大学研究開発機構教授 | 福岡 捷二 |
| 鳥取大学工学部社会開発システム工学科教授 | 細井 由彦 |
| 鳥取大学名誉教授 | 道上 正規<委員長> |

【Ⅳ】配布資料

- 資料-1 議事次第
- 資料-2 第6回 大橋川改修に関する環境検討委員会 議事要旨
- 資料-3 水質予測モデル説明資料
- 資料-4 大橋川改修に関する環境調査の進め方

【Ⅴ】議事次第

1. 第6回委員会意見概要 (資料-2)
2. 水質のシミュレーションについて (資料-3)
3. その他

【VI】 議事概要

1. 第6回委員会議事要旨の確認

<委員一同 異議なし>

2. 水質のシミュレーションについて

- ・ クロロフィル a の再現計算について、再現精度の向上が見られる期間と、精度向上が見られない期間があるが、違いは何なのか。
→ 藻類の種類別に栄養塩の取り込み比率を設定しているため。 <事務局>
- ・ NO_x-N の再現計算について、再現精度が低い期間があるのは何故か。
→ 水質予測モデルの限界もあるが、今後も再現性の向上には努める。 <事務局>
- ・ 水質予測モデルによる再現精度については、境界条件として与えている流動予測モデルによる再現精度の誤差も含まれており、水質の再現計算結果を実測値に合わせていくことも大切ではあるが、必要な再現精度の程度について議論すべきである。
- ・ モデルによる再現計算については、流動モデルによる再現精度の誤差及び、その結果が、水質モデルの再現精度に与えている影響について確認しておく必要がある。
- ・ 予測モデルによる再現精度の限界を明確にすることが重要である。 <委員長>
→ 了解しました。 <事務局>
- ・ 内部生産に係わる物質収支について、動物プランクトンの項の追加を行っているが、シジミ等のベントスによる捕食項も組み込んだ方が良い。
→ 大橋川改修の影響予測については、シジミ等のベントスによる捕食項までは組み込まない方針としている。 <事務局>
- ・ 前回委員会で議論されたと思うが、将来予測において、尾原ダム完成後の流入負荷の条件はどのように与えるのか。
→ 別途検討によるシミュレーション結果を境界条件として与える。 <事務局>
- ・ 本モデルを用いて予測計算を行うことについては差し支えないと判断する。ただし、モデルによる再現性の精度向上については、今後も鋭意努めること。 <委員長>

3. その他

(地下水調査、ホトトギスガイ実験について)

- ・ 地下水利用の影響の有無については、水質（塩分）の測定が必要である。
- ・ 地下水位に加えて水質も検討していくこと。 <委員長>
→ 今回の委員会提示資料は水位についてのみの途中経過を示したものであり、水質については一次とりまとめに向けて整理を行う。 <事務局>

- ・ ホトトギスガイの低塩分耐性実験については、生物には多様性があり、耐性も一様でないため、実験で得られた結果が必ずしも死滅条件ではないことを認識しておくことが必要である。

→ 了解しました。＜事務局＞

4. 今後の予定について

- ・ 夏頃までに一次とりまとめ（案）の提示を行う次回委員会を実施したい。＜事務局＞
- ・ 「保全措置の検討」については検討段階で委員会に諮るべきではないか。
- ・ 「生態系に対する影響予測」は委員会で審議すべき重要な内容であり、事務局主体で判断すべきものではないのではないか。

→ 一次とりまとめ（案）については、事務局で検討した内容を委員会に提示し、内容について技術的助言、指導をいただく。なお、検討段階で、各委員に個別ヒアリングを実施する。＜事務局＞

- ・ 一次とりまとめ（案）の内容は多岐にわたるため1回の委員会では議論することが困難であると思われる。
- ・ 一次とりまとめ（案）についての審議を行う委員会は、水環境・水質、動植物・生態系などに区分して数回に分けて実施すべきであると思われる。＜委員長＞

5. その他

- ・ 「大橋川周辺まちづくり検討委員会」の開催状況を事務局より紹介。

以 上